

令和7年度 自然科学同好会の指導方針等について

令和7年4月8日

1 指導体制

顧問教諭氏名	
主顧問	田代 穂花

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
生物・科学分野に興味を持ち、生物の飼育に責任を持って取り組み、実験手技を身に付け、自然や生命を大切にし、自ら学び、考え、行動する能力を養う。
- (2) 具体的到達目標
飼育動物の管理を安全・適切に行ったり、基本的な実験手技を身に付けたりすることができるように指導を行う。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
地域の自然環境保全に関心を持ち、水質調査などの環境ボランティアに積極的に参加するなど自ら行動する姿勢を育てる。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
週に1回、部長・副部長が中心となり部員全員で活動を行う。飼育は当番制とし、負担が偏らないように留意する。また、生物の飼育や実験を安全に行える環境を整える。
- (2) 活動やボランティア活動等の計画
1学期：基本的な飼育方法の習得、基礎的な科学実験の実施、水質調査ボランティア参加
2、3学期：生物の飼育方法の習得、応用的な科学実験の実施
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
当番制を通して、責任感・継続力を養う。
普段の学校生活からルール、挨拶を重んじ、他の生徒の模範となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
当番や共同作業を通して、協調性やコミュニケーション能力を育む。
- (5) 学習と部活動
学習と同好会の活動を両立させるため、家庭での学習時間を確保するよう指導する。

4 指導内容・方法

- (1) 体罰・暴言等のない指導
生徒の自主性を尊重し、コミュニケーションを取りながら丁寧で分かりやすい指導を行う。
また、改善点を具体的に伝えることで成長を促す。
- (2) 生徒間の暴力禁止
普段から、調和のある雰囲気づくりに努め、部員同士で暴力により問題解決を図ることのないよう指導を徹底する。いじめや乱暴な行為を見逃さず、発生予防と迅速な対応を行う。

(3) 事故防止・安全配慮

飼育動物の管理方法、実験器具の扱い方を事前に指導し、危険を理解させる。

ボランティア活動などの校外活動では、事前説明・学習を十分行い、安全を最優先に行動し、学びある活動となるよう工夫する。

(4) 専門家等からの助言

生物の飼育・実験について、必要に応じて理科教員の助言や支援を受ける。

水質調査や環境活動について、協力団体からの指導や講習を積極的に活用し、専門的知見を取り入れながらより安全で質の高い活動に繋げる。

5 主な年間計画

学期	月	内 容
1 学期	4	部活動紹介 部活動体験、新入生勧誘 1 学期の活動の計画立て
	5	飼育方法の確認・共有
	6	飼育動物の世話・記録 美しい多摩川フォーラム 水質調査ボランティア参加
	7	飼育動物の世話・記録 夏季休業中の飼育当番の確認 保護者会実施
2 学期	9	2 学期の活動の計画立て 水質調査結果の確認 飼育動物の世話・記録・飼育状況の報告会（月一回）
	10	飼育動物の世話・記録・飼育状況の報告会（月一回）
	11	飼育動物の世話・記録・飼育状況の報告会（月一回）
	12	飼育動物の世話・記録・飼育状況の報告会（月一回） 3 年次 後輩部員への卒研発表 冬季休業中の飼育当番の確認
3 学期	1	3 学期の活動の計画立て 飼育動物の世話・記録・飼育状況の報告会（月一回）
	2	飼育動物の世話・記録・飼育状況の報告会（月一回）
	3	飼育動物の世話・記録 新入生部活動紹介の準備 春季休業中の飼育当番の確認